



減災に資する人材育成

兵庫県立大学 減災復興政策研究科長

室崎 益輝

減災とレジリエンス

- ▶ 「事前、最中、事後」あるいは「予防、応急、復旧、復興」の減災サイクルを一体的にとらえ、「ハード、ソフト、ヒューマン」の減災レジリエンスを一体的に捉えて、減災に取り組む必要がある
 - (1) 減災の体系性・・減災は対策の足し算
 - 時間の足し算、人間の足し算、空間の足し算、手段の足し算
 - (2) 計画論、制度論、施設論、運営論
 - プランだけでなくマネージメントも

減災とヒューマンウエア

- 手段の足し算は、ヒューマンウエアの大切さと防災教育や人材育成の重要性を教えている

施設が整備されていても、計画が作成されていても、それだけで人間や地域は守れない

マネジメントカとリテラシーカが必要

- 人間の足し算は、減災に資する多様な組織と人材の協働の重要性を教えている

地域や組織をつなぐ連携に加えて、職種や能力をつなぐ連携が必要

土業連携や専門ボランティアが必要

問題・・・人材がボトルネック

- 東日本大震災でも熊本地震でも、応急対応や復興対応に欠かせない人材が決定的に不足していたため、災害対応の混乱や遅れが随所で発生した

物資の配送、瓦礫の処理、調査の実施、被災者のケアなどで人材が足りずに混乱が起きている

応急危険度判定や住宅被害調査の遅れ

みなし仮設や在宅被災者のケアの欠落

- (1) 量的問題・・・災害対応に当たる人材の絶対数が足りない
- (2) 質的問題・・・災害対応に必要なシステムがない、また担当者などの能力が十分に育まれていない

対象・・・土の人、風の人、水の人

- ▶ 減災を進めていくには、その担い手である「土の人」（全ての国民）の意識や知識を高めていく必要がある・・・防災教育や防災研修

トップもボトムも

- ▶ 減災を進めていくには、減災の科学やノウハウを開発し普及する「風の人」（防災の宣教師）の育成とバックアップをはかる必要がある・・・大学などでの防災・減災分野の充実・・・専門委員がいつでもどこでも「同じ人」では限界

ハードもソフトもヒューマンも

- ▶ 減災を進めていくには、土の人と風の人の間にはいって、土の人に寄り添いながら減災力の向上を支援する「水の人」（防災のコーディネーター）の育成と能力アップをはかる必要がある

行政にも、企業にも、地域にも、学校にも

内容・心、技、体

- 災害に強い人には、減災の心・技・体が欠かせない 防災教育や人材育成ではその心・技・体が身につくプログラムが必要
 - 心・・・知識はもとより認識や意識が大切
 - 命の大切さや助け合いの大切さを以下に教えるか
 - 技・・・技能やスキルをいかに磨くか
 - ハードだけでなくソフトな技能も マネージメントやコーディネート
 - 体・・・体制や体質づくりの力 リーダーシップとパートナーシップ
- 災害対応の経験やノウハウの継承が欠かせない・・・現場や担当者に災害対応の経験を伝承するシステムが必要
 - 一般的なノウハウとともに専門的なノウハウも伝える

専門的人材の育成

■ 風の人と水の人 の育成が必要

(A 1) 防災研究を進める研究教育機関での養成

京都大学防災研究所、東北大学災害科学国際研究所

(B 1) 防災人材育成を目的とした研究教育機関での養成

政策研究大学院大学（防災・危機管理コース）、兵庫県立大学減災復興政策研究科

(B 2) 有明や人防あるいは消防庁などの専門家研修やトップセミナーを通しての養成

(B 3) 企業や行政などが独自に実施する防災リーダーや危機管理者研修による養成

(B 4) 防災士や危機管理士などの資格認定を通しての養成

→養成や研修のプログラムの体系化が遅れている

コミュニティ人材の育成

- ▶ 国民あるいはコミュニティリーダーの防災意識や知識を高める取り組みも大切・・・災害が巨大化する中で民間あるいは地域の中に無数の防災力を持った人材を配置する必要性が高まっている

(1) 学校教育、家庭教育、地域教育の推進と連携

そこに大学がいかに関与するか・・・岐阜大学や香川大学など

そこに民間組織がいかに関与するか・・・プラスアーツなど

(2) 職場教育の推進・・・危機管理のリーダーだけでなく、一般職員全員を対象に

(3) ボランティア教育の推進・・・広く社会的な取り組みとして展開すること